

パネルディスカッション「各領域の新技术と検診への応用の可能性」

消化器がんの診断において、近年目覚ましい進歩がみられております。消化器内視鏡領域ではAI診断を備えた装置が、徐々に普及しつつあります。またNBIをはじめとする様々な画像技術革新もみられております。肝細胞癌領域においては、肝硬度や脂肪定量等が超音波で簡易に測定できるようになったことで、肝細胞癌の高リスク群を効率よく絞り込むことができるようになってきました。肝線維化についてはFIB4等の簡便なスコアリングシステムも活用が広がってきています。Fusion等を活用すると、より簡便にスクリーニングができる可能性もあります。また以前の画像と対比しながら検査できるようにするシステムも実用化されています。また造影超音波については、働き方改革により超音波検査士等による造影剤の注入等もできるようになり、肝以外にも有用性が認められつつあります。胆膵領域では超音波内視鏡機器についても高画質化のみならず、より低侵襲に検査ができるようになってきております。これらの各分野における新技术を知ることは、検診担当医師・技師ともに重要であり、更にこれらの中から検診に応用できるような技術の可能性についてもディスカッションいただきたいと思います。